

# 静岡県立湖西高等学校

## 令和4年度 第2回学校運営協議会 概要

1 開催日時 令和4年10月6日(木)13:00~15:00

2 開催場所 静岡県立湖西高等学校 会議室

3 出席者 全9名(順不動)

- (1) 鈴木 聖慈氏 (湖西市教育委員会 学校教育課 課長)
- (2) 矢田部 和孝 (東海旅客鉄道株式会社 鷺津駅 駅長)
- (3) 木藤 政美氏 (豊橋創造大学 学生課 課長)
- (4) 彦坂 昇氏 (フレイムアースEVエナジー株式会社 総務人事本部 本部長)
- (5) 田坂 浩二氏 (湖西高等学校PTA 会長)
- (6) 小林 孝誌 (校長)
- (7) 渡邊 二三彦 (副校長)
- (8) 磯部 幸宏 (教頭)
- (9) 袴田 早苗 (事務長)

※都築 英嗣氏 (表鷺津自治会 会長) も委員として任命されているが、当日所用のため欠席

4 次第

- (1) 開会のことば
- (2) 授業参観・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5限目授業を参観。詳細は授業一覧
- (3) 校長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 詳細は5議事録(1)参照
- (4) 自己紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 詳細は3出席者参照
- (5) グローカル・ハイスクール事業について
- (6) 本校校則に関する意見交換
- (7) 諸連絡
- (8) 閉会のことば

5 議事録

(1) 校長あいさつ

学校の様子について、報告

- ・コロナ禍だが、学校行事は通常に近い形で実施できている。体育大会も来賓を招き、保護者の参観を可として実施した。生徒も充実していた。2年生修学旅行は沖縄を予定している。
- ・部活動では野球部が秋季大会で初の県大会に進出した。新人戦では卓球部が東海大会出場、国体では、水球部2名が県代表となった。

- ・3年生の就職希望者は多くの生徒が順調に内定をもらっている。大企業からの求人も多く内定も多くいただいている。優良企業も多く、就職希望者が増加している。その分、指定校推薦が十分な利用できていない。例年100人くらい進学希望者がいるが、今年は約30人くらいであった。就職が好調なため、進学の実績が伸びない。
- ・湖西市内の中学生には、本校の進学の実績が伸びない正確な理由を説明したいが、十分に通じていない。ある一定の学力層が本校に志願し、将来、地域に戻ってきてほしいと考えている。
- ・夏休みには全教員が中学校を訪問したが、タブレットを使用して学校を紹介し、中学校から好評だった。国語の授業では、母校の恩師に暑中見舞いを書き、母校の中学校に郵送した。
- ・校長が佐鳴予備校を訪れ、学校の説明をした。佐鳴予備校からは学校を見させてほしいと言われたので、そのうち見学に来るかもしれない。本校の内容を知った上で、中学生に指導してもらいたい。
- ・広報室を充実させ、本校のイメージアップを図っている。湖西高校物語の配布、SNSの活用を進めている。
- ・学校裁量枠に地域貢献を設けた。探究活動に意欲がある生徒を募集する。この裁量枠は中学校からの評判がいい。入学した生徒をグローバル・ハイスクールの中心生徒として生かし、学校をPRしたい。
- ・本校のユニークな取組みとして、10月19日に「SHIFUKU DAY」を実施する。生徒が制服を見直す機会にもしたい。
- ・アルバイトも奨励したい。夏休み前に（学校の許可を得た上でのアルバイトを）奨励した。多くの生徒がアルバイトをした。学期中のアルバイトも柔軟に認めていきたいと考えている。3年生は働いた経験がない。就労体験をさせて自己肯定感を高めさせたい。地域の教育力にも期待したい。パネルディスカッションの提案も考慮したい。
- ・職員間の雰囲気やチームワークも良い。先日、指導主事が本校を訪れたが、驚いていた。
- ・委員の皆様には、スクールポリシーの策定にも御協力いただきたい。職員も一人一案でアイデアを出している。

## (2) グローカル・ハイスクールについて（教頭より）

- ・令和3年度から県が「オンリーワン・ハイスクール」を実施している。その中の「グローバル・ハイスクール」に指定された。
- ・本校の地元密着性を生かし、地域の協力を得て、地域に根ざした活動を実施し、将来の地域に貢献できる人物を育てたい。探究活動に力を入れようと考えている。普通科として特色化を図りたい。
- ・具体的な取組について
  - ◆湖西高校弁当をキラキラフェスタで販売する予定。家庭科の授業で探究的に制作した。
  - ◆公共では、市の職員を招き、産業・歴史講話をいただいた。音楽探究では、鷺津民謡を学ぶ予定。
  - ◆各教科で湖西にちなんだ授業ができるよう、教員が取り組んでいる。
  - ◆湖西検定を作成している。部活動も地域貢献をしている。
  - ◆指定3年目の来年度の完成を目指している。
- ・三味線部が市制50周年行事に参加。ボランティア部が浜名湖JCとコラボして、おいでん祭で市民の方にアイスクリーム等の試食会を実施した。生徒、教員ともに活動の効果を実感している。

- ・浜名湖キューバ・ヘミングウェイカップには様々な部活動が参加した。
- ・浜名特別支援学校と連携している。文化祭をはじめ、生徒の交流も行われ、他に教育相談など、協力している。
- ・文化祭のクラス展で、2年生が地元企業とコラボして展示を実施した。
- ・他校の教員に本校の研修会の参加を呼びかけ、湖西市内小中学校や商工会、NPO法人には、湖西コミュニティカレンダーの記事作成を依頼し、協力をいただいている。本校がセンター的機能を担えるようにしたい。
- ・ランドデザインでは、市の諸機関や地元自治会、PTAとの連携の考え方が描かれている。本校の特徴が良く表れている。
- ・静岡新聞の取材も受け、記事（探究活動、データベース活用事例）が掲載された。
- ・学校の全てが探究・地域との連携をめざして、活動を推進していきたい。
- ・（校長補足）湖西検定については、今年は歴史・産業をテーマに作成している。各教科の授業も協力している。教科横断的な取組みが増えている。新居高校にも湖西検定の参加を呼び掛けている。
- ・（副校長補足）今年度は内容を精選している。負担が大きくならずに、管理職、教職員共に効率よく実施できている。

#### 委員からの感想・意見

（木藤委員）

グローバル・ハイスクールの授業は、どの授業で取り組んでいるのか。

〈教頭〉総合的な探究の時間や部活動等、学校全体で時間を使って活動している。

〈木藤委員〉カリキュラム・マネジメントの考え方からも、教科を越えた横断的な学びは大切である。

体験的で、生徒が主体的に学んだものは、生徒の実体験は生徒の長期記憶にも残っていくだろう。

進路の面接でも、語れる材料になるだろう。感心する取組みである。

（矢田部委員）

計画や地域との連携には、様々な活動に御苦労があるだろう。教職員の負担はどのようなものか。アンケートや積極的なコミュニケーションを取るなどしているのか。

〈教頭〉校内委員会を立ち上げ、内容の精選や方向性の確定、教員の意見を吸い上げた。方向性が定まったことにより、効率的に実施できている。

〈副校長〉勤務時間の集計では、勤務時間は減っている。事業の流れができてきており、役割分担もできてきている。

（鈴木委員）

小中学校も新学習指導要領に移行している。課題を解決する力を育むには、もう少し子供に任せてみるといいだろう。自分で課題を解決できる力を育てるにあたって、新学習指導要領に沿った湖西高校の取組みは、県下でも先んじて生徒が主体的に取り組む活動を取り入れていると言える。今後、小中学校と連携しようとする試みはありがたい。主体的に子供を動かすには、教員からの働きかけが必要である。教員の負担感は、本当に少ないのか、子どもが「なぜ？」と思う授業でないと、子どもは取り組まないの、教員の準備は大変になる。小中学校も準備に苦労している。湖西高校の工夫を教えてください。

（田坂委員）

部活動や学年ごとに様々な活動に参加して、商工会や地元企業ともコラボしている。生徒は大人から色々なことを教えてもらい、生徒自身の勉強になると思う。インターンシップも良い社会体験にしてもらいたい。湖西高校弁当、コミュニティ・カレンダーを楽しみにしている。

(彦坂委員)

- ・湖西高校は、新聞等でも露出度が高い。マスコミも活動を理解している。記事に取り上げられることによって、地域にも周知・理解されるし、生徒の励みにもなる。
- ・豊田佐吉の日めくりカレンダー関連の英訳では生徒が前向きだった。前向きな生徒がいる学校は、学校生活が活性化しているということだ。教職員のサポートもできていると思われる。
- ・地域では、グローバル・ハイスクールの指定が終わっても、継続できるような視点を持ち、検討してほしい。湖西は地域に密着した学校であると、アピールできるとよい。

### (3) 校則について

(彦坂委員)

本校の校則について、事前に資料を送らせていただいた。広く意見をいただきたい。

(彦坂委員)

- ・Ⅱ服装の9、「ジャンパーは着用してはならない」とあるが、本当に着用は禁止なのか。  
〈校長〉実際には着用している。生徒の体調も考慮して、着用は禁止していない。廃止すべき項目であると思う。
- ・(生徒の体調を考慮しての) ジャンパー着用は、部活動で校名入りのジャンパー等は、湖西高校のPRにもなる。
- ・「長期休業中」とあるが、一般には分かりにくい表現である。

(木藤委員)

頭髪について、高校生から「ツーブロックは、なぜだめなのか」という質問を受けたことがある。就職面接で許容されている髪型か否かというのが基準になると思われるが、高校生はNGだろう。安易に認めたら、生徒を守れなくなる。校則は、必要最小限の表記にとどめて、柔軟に対応するとよい。一方で、生徒やPTAの意見も聞き入れ、総合的に策定することが必要である。多くの大学生は、頭髪を加工しておらず、良識をもっている。SHIFUKU DAYに注目している。

(矢田部委員)

教職員や生徒の意見を踏まえてまとめていくのが良いだろう。時代と共に変わっていくので、時々意見を聞き、反映していくのが良い。

(田坂委員)

柔軟な対応が必要だ。部活動で作ったものではないジャンパーが不可となると、生徒も寒さが辛い。

(鈴木委員)

校則はシンプルにして、細かいことは書かないほうが良いと思われる。「頭髪の加工」の項は不要と思われる。「高校生らしい髪型」で網羅できるので、細かいことは生徒心得等への記載でよいのではないかと。生徒自身の判断に任せる、という学校の姿勢があっても良い。生徒会が検討に加わり、生徒からの発案であれば、生徒も守るようになるだろう。極端な話、私服でもよく、生徒に任せるのも必要ではないかと思う。

(彦坂委員)

校則は、シンプルな記載にするなど、検討いただきたい。

## 【その他】

(彦坂委員)

就職希望者の結果は、ほぼ出そろったのか。中小企業を希望する生徒が増えたというのは良いことである。今後も希望する生徒がいたら、地元企業への就職をお願いしたい。

(校長)

中小企業への就職希望も出るようになった。大企業、中小企業のバランスが取れた希望者数であったと感じている。

(彦坂)

中小企業に就職した生徒が、企業をアピールすれば、まさにグローバル・ハイスクールといえる。

(鈴木委員)

「SHIFUKU DAY」には取材は入る予定か。興味がある。

(校長)

入る予定である。中学校、地区の高校の生徒指導関係者、他校の高校校長も注目している。

(鈴木委員)

制服については、小中学校でも賛否両論がある。制服がなくなる原因の一つと思われる。

(校長)

・「SHIFUKU DAY」は、生徒とのコミュニケーションのきっかけにもなる。教職員も私服も可とする予定だ。

・グローバルには、教員が前向きに楽しみながら取り組んでいる。

(木藤委員)

夏期休業中のアルバイトの希望者は多くいたのか。

(教頭)

数は把握していないが、かなり多く出た感がある。

(田坂委員)

アルバイトは、就職希望者はやったほうがいい。社会は意外ときついで。

(彦坂委員)

大学生の就職希望者が、就職の面接でアルバイトに積極的に取り組んだ点をPRすることが多い。昔はアルバイトが悪いイメージがあったが、今はそうではない。

(矢田部委員)

何かを頑張り、気づきがあるのは、良いこと。次へのモチベーションにつながるだろう。

(彦坂委員)

アルバイトの経験者が、湖西高校のインターンシップでさらに力を発揮すれば、学生時代の良い経験値になるだろう。

(彦坂委員)

今後の学校の取組みについて、委員の意見を参考にさせていただき、時代に合ったものにしていただきたい。

(4) 諸連絡

(副校長) 第3回の協議会について、2月開催を予定している。